

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0970101861
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	今泉ケアセンターそよ風
所在地	栃木県宇都宮市中今泉4丁目22-1 (電話) 028-613-5781

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年9月3日

【情報提供票より】 (平成20年8月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤11人(うち兼務1人), 非常勤4人, 常勤換算12人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	・ 運営管理費—25,000円 ・ 理美容代、おむつ代、嗜好品—実費	
敷 金	有 (126,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (500,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (4年間)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年8月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人康積会 柴病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、市のコミュニティセンターの隣、スーパーなども近い便利の良い場所にある。周りにはアパートが多い土地柄ではあるが、隣の方から畑を借りたりもしている。ユニットごとに「家柄」の違いはあるが、職員は、入居者それぞれのペースや個性にそった支援に努めており、全体的にゆったりした時間が流れている。ユニットの生活の流れる時間の差によって職員の勤務時間帯をずらす配慮もしている。今年度になって職員発案で月1回だったミーティングを2回に増やし、訪問日にも話し合いをしている職員の姿が見られるなど職員間の連携が深まっている様子が見えてきた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 玄関周りに親しみがわくように花などを飾るようにした。また、介護計画作成のためにカンファレンスの機会を設けたいと管理者が職員に相談し、職員からの提案で月1回だったミーティングを2回に増やすなど、職員間の連携が良くなってきている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が交代したばかりということもあり、今回の自己評価は昨年の評価を参考に、職員と話をしながら管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 入居者、家族、自治会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員がメンバーになっており、偶数月に開催している。会議ではホームの状況を報告し、参加者からは地域の情報などをもらっている。今年から職員も交代で参加することにした。管理者はホーム勤務になる前の昨年からの会議に参加している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居者の担当職員が、毎月、家族にお便りで日常の様子や健康状態を伝えている。また入居者の写真や職員紹介を掲載した「そよ風便り」を発行している。預かり金は家族が訪れた際に報告している。なかなかホームにこられない家族には管理者が手紙を書いたり、必要に応じて電話連絡をしたりしている。重要事項説明書にホーム及び市、国保連の苦情相談窓口を明記しており、意見箱を置いている。家族からの要望等があったときには、申し送りノートで職員間で共有を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、回覧板などもまわってくる。地域の夏祭りや消防訓練などにも参加している。道を挟んで図書館も併設している市のコミュニティセンターがあり、イベントに出かけたり、傾聴ボランティア養成の実習協力などもしている。近所の友人が遊びにくる関係を継続している入居者もいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと 楽しく 自由に その人らしく あたりまえの生活ができるよう支援していく」を開設当初からのホームの理念としている。	○	この5月に管理者が交代になり、職員の多くも開設当初からは変わっている。職員間の風通しが良くなってきているという声も聴かれたので、地域との関係も含めて、改めてホームで大切にしていけるべきこと・大切にしていきたいことを話し合っていくことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務スペースに模造紙に大きく書かれた理念と職員が心がけること（「目配り 気配り 心配り 思いやりと笑顔を忘れずに」）がすぐに目に付くように掲示されている。1日3回の申し送りや最近回数を増やした月に2回のミーティングなどで職員間の話し合いを持ちながら理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板などもまわってくる。地域の夏祭りや消防訓練などにも参加している。道を挟んで図書館も併設している市のコミュニティセンターがあり、イベントに出かけたり、傾聴ボランティア養成の実習協力などもしている。近所の友人が遊びにくる関係を継続している入居者もいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が交代したばかりということもあり、今回の自己評価は昨年の評価を参考に、職員と話をしながら管理者がまとめた。玄関周りに親しみがわくように花などを飾るようにした。また、介護計画作成のためにカンファレンスの機会を設けたいと管理者が職員に相談し、職員からの提案で月1回だったミーティングを2回に増やすなど、職員間の連携が良くなってきている。	○	昨年までは職員の交代が続いていたが、今年になって職員の離職が減ってきたり、ミーティングの回数を職員提案で増やしたりといった変化が見られている。今後は評価の機会を更に活かしていくためにも自己評価・外部評価への職員の参加を高めていくことに期待したい。

今泉ケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、自治会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員がメンバーになっており、偶数月に開催している。会議ではホームの状況を報告し、参加者からは地域の情報などをもらっている。今年から職員も交代で参加することにした。管理者はホーム勤務になる前の昨年からの会議に参加している。	○	当ホームは、公共施設やスーパー、美容室などが近く、地域生活の継続を支えやすい環境にある。職員を交代で参加させるようにしたりと運営推進会議の場を更に活用していこうという姿勢が見られるので、双方向的な会議を目指して更なる充実を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年の5月に急な管理者の交代等があり、管理者研修について相談したりしている。市との相談は管理者が窓口になっており、市の職員とは顔の見える関係をつくっている。運営推進会議への市の職員の出席はない。	○	センター全体として介護教室を開いたりしており、管理者は今後、地域の高齢者の暮らしに役立つような取り組みを検討したいとも考えている。入居者が生活しやすい地域をつくっていくという意味でも、例えば認知症サポーター養成講座などを検討してみたりと市との連携の機会をつくっていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の担当制を取り入れており、各職員が、毎月、担当の入居者家族にお便りで日常の様子や健康状態を伝えている。また入居者の写真や職員紹介を掲載した「そよ風便り」を発行している。預かり金は家族が訪れた際に報告している。なかなかホームにこられない家族には管理者が手紙を書いたり、必要に応じて電話連絡をしたりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び市、国保連の苦情相談窓口を明記しており、意見箱を置いている。家族からの要望等があったときには、申し送りノートで職員間で共有を図っている。	○	管理者は家族との接点づくりを大切にしたいと考えているので、家族が意見や要望を言いやすい雰囲気づくりという意味でも、その取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年度までは職員の離職が多く、止むを得ない事情で管理者も突然交代になるなど苦慮していた様子がうかがえる。今年度になって状況が落ち着いてきており、更に職員の増員について法人に相談したりもしている。職員が交代になるときには周りの職員がカバーして入居者に影響がないように配慮している。	○	職員の提案でミーティングを2回に増やすなど、管理者と職員、職員同士の連携が深まっている様子がうかがえる。訪問日にもミーティングをしている職員の姿が見られた。入居者と職員の馴染みの関係の継続という意味でも、また離職を抑え質の維持・向上を図るという意味でも、職員間の連携を大切にしたいチームづくりをしていくことに期待したい。

今泉ケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修の機会があるが、去年は職員の交代が続いたこともあり参加が難しかった。ミーティングの際に、その時に必要な知識について資料を渡して各職員に読んでおいてもらったりしている。法人として資格取得のための職員支援の仕組みがある。	○	今年度になって職員の交代が落ち着いてきており、さらに法人と職員の増員について相談したりもしていることから外部研修の機会を有効に活用していくことにも期待したい。また、ミーティングを月2回にしたことなどから内部の勉強会を充実させていくことにも期待したい。管理者の交代等で必要な研修の受講に苦慮した様子もあり、計画的な人材育成を図っていくことに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。また管理者（兼計画作成担当者）はケアマネジャー協会などに参加し、同業者との交流に努めている。同法人で県内に当ホームも含めて3ヶ所のグループホームがあり、他ホームとの交流もある。	○	職員の外部研修の機会を増やしていくことで、職員が同業者との交流の機会を持つていくことに期待したい。また、職員が市内の同業者と交流したり勉強会をしたりといった関係づくりを探っていくことにも期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には1回～数回、本人にもホームに見学に来てもらい、他の入居者と過ごしてもらいながら雰囲気を見てもらっている。入居前には本人と家族でホームに転居することを良く話し合ってもらいようをお願いしている。入居当初に本人が「帰りたい」となったときには、職員と一緒に歩いたり、家族に来てもらったりしながら徐々にホームに馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることは自分で、あるいは職員と一緒にやっている。食後の下膳なども無理のない範囲で行っていた。料理や畑のなどを教わっている。職員の対応は笑顔でゆったりしており、訪問日には入居者と職員が腕相撲をする場面も見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での入居者の言動から希望や意向の把握に努めている。なかなか本音の言えない方には、居室で話をしたりと思いや意向を引き出す配慮もしている。担当職員が介護計画の原案を作成するなど、職員の気づきを活かして本人本位に検討するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に話し合ったり、ホームに訪れることが難しい家族には介護計画書を送付して見てもらったりして家族の意見を反映するよう努めている。医師からの指示などがあるときには介護計画に反映させている。また担当制を用いたり、ミーティングで話し合いながら職員の気づきも取り入れた介護計画の作成に努めている。	○	管理者（兼計画作成担当者）は、特に入居当初のケアカンファレンスを充実させたいと考えており、職員と相談してこれまで月1回だった職員会議を2回に増やしてケアカンファレンスの時間を増やすなどの改善を図っている。また家族との接点づくりをしながら、家族と一緒にケアをしていく関係をつくっていききたいと考えているので、今後の更なる充実に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間ごとの定期的な見直しのほか、必要に応じてその都度見直しをしている。モニタリングの様式が定まっており、3ヶ月に1回、評価を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は基本的に家族が対応するが、難しいときには職員が対応したり、買い物や理髪に出かけたりと柔軟な支援に努めている。ホームの階下にデイサービスセンターがあり、ボランティアが訪問したときなどは一緒に楽しんだりもしている。		

今泉ケアセンターそよ風


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に家族の対応で、それぞれのかかりつけ医で受診し、受診後の状況を聞いて必要な情報は申し送りノートを活用して職員間で情報共有している。協力医療機関以外に、月に1回往診してくれ、24時間連絡がとれる医師を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や医師と相談しながら重度化・終末期を支えている。可能な限り重度化や終末期の対応をしていきたいと考えている。医療との連携について困難さも感じている。	○	職員研修の機会も検討しており、またミーティングの回数も増やしていることから、今後も折にふれ職員間での話し合いを続けていくことを期待したい。また、本人や家族とも折に触れて相談・話し合いを続け、医療面も含めて必要な機関や人なども検討しながら体制を整えていくことにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分で居室の鍵を管理できる方には入居者に鍵の開け閉めをしてもらったり、居室に入るときは一声かけるなどプライバシーに配慮している。記録等は個人情報保護方針にそって適切な管理に努めている。職員の声のかけ方や態度など、入居者の自主性を大切にしており、プライドに配慮している様子がうかがえた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりのペースや希望にそった支援に努めている。訪問日にも新聞を読んだり、歌を歌ったり、昔話に花を咲かせたり、それぞれのペースで過ごしている様子が見られた。		

今泉ケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夜のおかずは階下のデイサービスセンターで作ったものが届き、ご飯や味噌汁はホームで作っている。朝食及び日曜日の3食はホームで作り、調理や後片付けを一緒に行い、一緒に食べている。昼食は、職員は1名が検食を兼ねて同じ物を食べ、その他の職員は入居者を支援したり、別室で弁当などを食べている。昼食はおかずを選択できるようになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する方も多く、順番にも配慮しながら14:00~17:00ぐらいの時間帯で入浴を支援している。入浴の苦手な方にも週2回~1日おきに入浴してもらえよう支援している。訪問日にも多くの方が入浴していた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・後片付け、掃除、洗濯物たたみ等の家事仕事や歌、お手玉、手作りすごろく、散歩、買い物など役割・楽しみごと・気晴らしの支援をしている。絵や裁縫など得意なことや入居前にしていたことの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前に川が流れており、週に2~3回は川沿いを散歩する機会をつくったり、朝のゴミだしをしたり、買い物に出かけたりと外に出る機会をつくっている。「一人ひとりの希望にそった」外出の支援となると難しい場合もある。	○	車の往来等には注意すべきではあるが、公共機関やスーパーなどが近くにある恵まれた環境にある。職員の交代が減ってきていたり、職員の話し合いが増えてきたり、運営推進会議を通して少しずつ地域の理解も深まってきているようなので、入居者がより自由に地域の中で生活できるような環境づくりを検討していくことにも期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除き鍵をかけていない。ホームは2階にあり、エレベーターか勾配が緩めの階段で階下に降りようになっている。	○	現在の管理者に変わって、入居者の状況を勘案しながら、例えば洗濯室などに鍵をかけることをやめてみようといった取り組みもしている。入居者の持てる力や必要な支援を検討しながら、今後も入居者の自由な生活を支えていくための支援を追求していくことに期待したい。

今泉ケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の他事業所と一緒のセンターとしての訓練とホームとしての訓練を年2回+1~2回実施している。地域の消防訓練にも参加している。いざというときに隣近所に協力してもらえるよう依頼してある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は階下の併設デイサービスセンターの栄養士が作成、もしくはホーム職員が作成した献立を確認してもらっている。食事・水分の摂取量を記録し、適切な摂取ができるよう支援している。体重測定も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けをし、新聞やポットなどが入居者の手の届くところにさり気なく置いてある。音や光も適切に配慮され、窓の開け閉め等で換気を行い室内に空気よどみ等はなかった。食卓のほか、ソファを置いたり、廊下の端にイスを置いたりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室の造りではあるが、畳の敷物を持ち込んで布団での生活をしたり、テレビや冷蔵庫、仏壇などを持ってくる方もいて、それぞれの居室づくりをしている。自室の鍵を自分で管理されている方もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。